

# 実践経営学会会報 11 2010

もっと、もっと、経営の実践に目を —確かな経営学を戦略的に担う学会として—

会長 平野 文彦（日本大学）

論理的取扱いを急ぐがために、あるいは手続き的な科学性を得んがために、明らかな資料不足のままに統計的手法を適用したような研究成果には、正直、身震いを伴う恐怖さえ覚えるものである。それらはどれだけ集めても真の全体像には迫れないよう思うからである。それどころか事実を長く、同時に深く見ないままの判断は、人々の社会認識を誤らせかねないからである。企業の現実に触れば触れるほど、世の中に出回っている数値的説明とのギャップに耐えられない思いを強くすることが多い。それでもって説明できる現実はあまりにも限定的であるうえに、そこに「実質的な責任」を回避して「形式的な業績」を積み上げようとするテクノクラートの生き方と手法をみると、ある種の貧しささえ感じるものである。

ある金融機関が発表した最近における報告レポートの最後にこう書かれていた。「ここに記載されているデータ、意見等は弊社が公に入手可能な情報に基づき作成したものですが、その正確性、完全性、情報や意見の妥当性を保証するものではなく、また、当該データ、意見等を使用した結果についてもなんら保証するものではありません。本資料に記載している見解等は本資料作成時における判断であり、……。」無償で提供するものだからといって、内容について責任を回避できるものではないだろう。だからこそ聊かの責任も生じない装置の工夫に細心の努力が払われているのかもしれない。

そんな姿も現代の特徴の一つかもしれないのだが、実際には解明と説明が待たれている現実が広大に存在していることにわれわれは思いを致すべきであろう。特に、日々にイノベーションが進んでいくビジネスと経営の分野においては、何よりもその現実に関心をもって、観察と分析を進めることができないというべきであろう。またそこに経営実践を観察することから理論化のための仮説を引き出すという手法を大事にする実践経営学の果てしない広がりがあることを知るべきであろう。

そのためにはそのようなスタンスをもった研究者が明らかに不足している。経営の実践に、様々な形で関わっている、より多くの人たちに、われわれの研究に参加していただくことが不可欠だといえそうである。何しろ確かな理論構築に必要な、現場からの生の情報が完全に不足しているのだから。もっと、もっと多くの人たちにこの学会に加わっていただかなければと考えるものである。

日本経済新聞夕刊にこんな言葉があった。「父（高等小学校卒…筆者挿入）は学問を心の底から愛した。（中略）元来の知的好奇心は衰えず、仕事とは別に無報酬で研究を続け、民俗学に貢献をした。功績はささやかかもしれない。しかし道を究めるのに雑魚（ザコ）か魚（トト）かは関係ない。そう言いたかったのではないか。そんな人生と比べ、自分のこれまででは負けず劣らずと胸を張れるのだろうか。どうやらまだ、親父（おやじ）は先にいる。」（「あすへの話題」（丸紅会長の勝俣宣夫氏）2010.11.19）

ひたむきな努力の積み重ねとその価値に気づかせてくれる「真摯なものづくりの世界」、グループやボンパレに見る「ネット時代の販売の世界」。「先を急がせずに、ゆっくり教えた方が、将来に大きな花を開かせる」という信念に基づく「育てるための反生産性論理による雇用の世界」。社会に温もりと矯正力をもたらす「トイレの神様」の世界など。われわれは、経営実践の世界をこよなく愛することで、実践経営学の奥義へ道を拓いていこうではないか。観察して、分析してみたい材料が底をつくことはない。実際に楽しいことではないか。この学会に集う多くの会員の方々とともに、実質の高い経営学を追求していきたいと思う。

# 機関誌『実践経営』第48号の投稿論文の募集

機関誌編集委員会

編集委員長 水谷内 徹也

『実践経営』第46号（平成20年8月発行）までは、全国大会における報告者の多数を掲載する編集方針のもとに発行されてきましたが、『実践経営』第47号よりレフェリーによる査読を経た論文数本を掲載する論文集とすることが、2009年9月の会員総会において承認されております。

そして毎年の全国大会における報告論文を掲載する論文については、平成20年9月の常任理事会および理事会における審議、平成20年9月の会員総会における決定にもとづいて、『実践経営学研究』というタイトルで大会時に発刊されることになり、すでに第52回全国大会においてNo.1が、第53回全国大会においてNo. 2が刊行されました。

そこで機関誌『実践経営』48号への投稿論文（査読付き）を募集いたします。

別紙の執筆要綱に基づいて、平成23年1月30日（日）までに下記の投稿先（本部事務局幹事）までご応募ください。

## 【機関誌編集委員会 連絡先】

問い合わせ先：〒930-8555 富山市五福3190 富山大学経済学部 水谷内徹也研究室内

実践経営学会機関誌編集委員会委員長

E-mail : mizuyach@eco.u-toyama.ac.jp

電話 : 076-445-6458 (研究室直通)

投 稿 先：〒333-0831 川口市木曽呂1510 埼玉学園大学平野賢哉研究室内

実践経営学会機関誌編集委員会

E-mail : k.hirano@saigaku.ac.jp

電話 : 048-294-1448 (研究室直通)

## 【『実践経営』第48号執筆要綱】

平成22年11月20日  
学会誌編集委員会

### 1. 投稿資格と提出論文の限定

- (1) 先の第53回全国大会（県立広島大学）および2009年9月～2010年8月末までに地方支部会において研究を発表された会員であること。
- (2) 提出論文は上記における報告ないしは報告論文の延長線上にあるもの。
- (3) 提出期限までに、その年度の学会年度会費が納入されていること。

### 2. 執筆の方法・文字数等

原稿は原則としてワープロによる横書きとし、論文の字数は、本文、注、図表、文献リストを含めて以下の通りとする。

- (1) 字数は、20,000字以上、22,000字以内（概算文字数を巻頭に明示すること。）
- (2) 図表は下記の要領で文字数に換算し、原則として合計で2ページ以内とする。  
いずれもタイトル1行と注記1行を含むものとする。

- ・刷り上り2分の1ページ大の図表：2000字
  - ・刷り上り4分の1ページ大の図表：1000字
- (文字数超過の場合には、形式審査の段階で排除されます)

### 3. 表記の方法

- (1) 図表は本文での挿入箇所を明示して、原稿の終わりに挿入する。(提出時)
- (2) 「表○ タイトル」は表の上部に、「第○図 タイトル」は当該図の下部に記載する。「図表○ タイトル」とする場合には図表の上部に記載する。
- (3) 引用文献について、本文では「著者名と出版年」で表示し、原稿の終わりに文献目録をアルファベット順に表示する。また必要に応じて若干の参考文献も列挙できる。
- (4) 引用文献・参考文献の表示は以下の通りとする。
  - ・雑誌等に掲載された論文の場合：執筆者名（出版年）、『論文題名』、『掲載誌紙名』、巻号、引用箇所（pp.○○-○○）
  - ・単行本の場合：執筆者名（出版年）、書名、出版社、引用箇所（pp.○○-○○）
- (5) 執筆原稿に、論文題名（和文と英文）、投稿者氏名（和文と英文）、住所、所属機関（和文と英文）、肩書き、電話・FAX・Eメール等の通信先を記入した表紙を付ける。
- (6) 原稿自体の冒頭には、論文題名、氏名、所属機関を明示すること。大学院生の場合は「院生」を明記すること。
- (7) 論文には4～5つのキーワードを表示する。

### 4. 投稿の方法

- (1) 投稿に際しては、原稿のコピー3部（査読用）、および電子媒体等（添付ファイル、CD等）1部を提出すること。（掲載の可否にかかわらず、提出されたものの返却は行わない）
- (2) 郵便書留便により送付すること。

### 5. 査読手続きの概要

- (1) 原稿掲載の最終決定は、原則として機関誌編集委員会が委嘱する2名のレフェリーの審査報告書に基づき、編集委員長が行う。
- (2) 査読の結果は「掲載可」または「掲載不可」のいずれかとし、原則として「修正のうえ、再査読」という結果はない。なお、2名の査読結果が異なる場合には、編集委員会において最終決定する。
- (3) 「掲載不可」となった場合には、編集委員会を通じて、「文献の探索が不足」、「論理構成に問題あり」など、簡単な査読結果が送付される。

### 6. 掲載の手続き

採用が決定された原稿については、編集作業上の必要から改めて最終原稿および電子媒体等の提出が求められることがある。

### 7. 校 正

採用原稿の執筆者校正は初校のみとする。部分的修正については編集委員会に一任する。

### 8. 注 意

執筆者は投稿原稿の不採用が決定される前に当該原稿を他に公刊しないこと。

以上

## 各支部会からのお知らせ

支部会は会員が切磋琢磨しながら、知的情報を国内外に発信できる知的サークルの場であると同時に、交流を深める機会でもあります。またそれぞれの地域の素晴らしい文化を再発見するチャンスでもあります。各支部ともそれぞれ充実した企画を検討しておりますので、奮ってご参加ください。

各支部会では研究報告者を募集しております。下記の支部へメールでお知らせ下さい。日程を決めます。

なお、実践経営学会では、それぞれが所属する支部以外の支部での報告も認められています。申し込みは各支部へどうぞ。

### 関西支部会

〈第56回〉 [日時] 2010年12月11日(土) 12:00~17:40

[場所] 近畿大学

詳細は、実践経営学会のホームページをご覧ください。

**連絡先** 実践経営学会関西支部

支 部 長：井形 浩治（大阪経済大学）

事務局長：田中 敬一（近畿大学）

FAX : 06-6726-3213

E-mail : tanaka@eco.kindai.ac.jp

### 中国・四国支部会

〈第1回〉 [日時] 2010年12月11日(土) 12:00~17:40

[場所] 近畿大学

関西・九州・中国四国合同支部会として実施します。

**連絡先** 実践経営学会中国・四国支部

支 部 長：小原 久美子（県立広島大学）

事務局長：青木 秀行（広島県社会保険労務士会理事）

TEL&FAX : 082-251-9743（研究室）

E-mail : obara@pu-hiroshima.ac.jp

### 九州支部会

〈第8回〉 [日時] 2010年12月11日(土) 12:00~17:40

[場所] 近畿大学

関西・九州合同支部会として実施します。

**連絡先** 実践経営学会九州支部

支 部 長：村上 則夫（長崎県立大学）

事務局長：柿本 義一（柿本総合経営研究所）

〒858-8580 佐世保市川下町123 長崎県立大学村上研究室内

TEL&FAX : 0956-47-6813（研究室）

E-mail : murakami@sun.ac.jp

## 関東支部会

2010年度の支部会は開催終了です。

**連絡先 実践経営学会関東支部**

支 部 長：金子 義幸（関東学院大学）  
事務局長：平野 賢哉（埼玉学園大学）  
〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1510  
TEL&FAX：048-294-1448  
E-mail：jsam-kanto@live.jp

## 北海道支部会

現在のところ未定です。

**連絡先 実践経営学会北海道支部**

支 部 長：杉江 直哉（元・道都大学）  
〒005-0015 札幌市南区真駒内泉町2-1-10-408  
TEL&FAX：011-583-7762

## 東北支部会

2010年度の支部会は開催終了です。

**連絡先 実践経営学会東北支部**

支 部 長：吉田 信一（富士大学）  
事務局長：浅野 浩子（仙台白百合女子大学）  
FAX：022-375-4343  
E-mail：asano@sendai-shirayuri.ac.jp

## 北陸支部会

現在のところ未定です。

**連絡先 実践経営学会北陸支部**

支 部 長：水谷内 徹也（富山大学）  
事務局長：安藤 信雄（星稜女子短期大学）  
E-mail：ando@seiryo.ac.jp

## 中部支部会

現在のところ未定です。

**連絡先 実践経営学会中部支部**

支 部 長：大島 俊一（中部大学）  
事務局長：向日 恒喜（中京大学）  
〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 中京大学  
TEL：052-835-7568（研究室） FAX：052-834-0895  
E-mail：mukahi@mecl.chukyo-u.ac.jp

## 第53回全国大会を終えて

全国大会実行委員長 小原 久美子（県立広島大学）

実践経営学会第53回全国大会は、実践経営学会中国・四国支部会と広島県社会保険労務士会との協賛により、2010年9月10日（金）～12日（日）の3日間にわたり、広島県情報プラザをメイン会場として開催させて頂きました。

ところで、本実践経営学会で全国大会を中国・四国地域（広島）で開催するのは初めてのことでありまして、実践経営学会にとって記念となる広島での有意義な大会となりました。遠方より広島での大会に全国から多数の会員の諸先生方にご参加頂きまして、3日間とも好評のうちに無事に大会を終えることができましたこと、改めて心よりお礼申し上げます。

本全国大会では「経営理念を基軸とした企業経営と人間力一人間性と合理性の調和を求めてー」という統一テーマを掲げ、この統一テーマにもっとも相応しい賀茂鶴酒造株式会社および株式会社サタケへの広島企業視察・理念経営研究から始まり、統一論題報告においては賀茂鶴の小林信也副社長に、酒づくりに心を込め、人としての本物の道を究めんとする姿勢と高度な専門技術とのハーモニーを見事にご披露頂きました。また、特別講演として、県立広島大学の樹下文隆先生より宮島学についてご講演も頂き、広島開催の特徴を十分に引き出して頂いたと思っています。

また、自由論題においては、2日目の午後にいたっても多数の参加者の方で盛況に行われましたこと、そして、何よりも研究領域の多面性・多角性のみならず、その奥行きの深さと研究意欲みなぎる先生方の熱意に感動した次第であります。

今回、初めての広島開催でしたので、何かとご不便なところもあったかと思います。しかしながら、温かいお心でご協力を頂きましたこと本当に有り難く、うれしく思っております。これを機にまた広島と中国・四国地域において頂けることを念願する次第です。最後に改めて全国大会開催につきまして、平野文彦会長を始め、会員の皆様のご支援、そして、広島県社会保険労務士会の皆様のご支援、皆々様の温かい感謝のお言葉に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 賀茂鶴酒造を見学して

埼玉学園大学 平野 賢哉

実践経営学会第53回全国大会が2010年9月に広島で開かれた際に、実行委員会のご尽力により、広島県西条にて江戸時代から酒づくりを続けてきた賀茂鶴酒造を訪ねることができた。近年では大学で研究・教育の職にある者も、それにふさわしい環境を与えられることが稀になってきており、外の世界を注意深く観察したり、先端技術に実際に触れてみたり、あるいは経営者の方から直接的に話を聞く機会が狭められているように思われる。このような事情から、学会参加の折に、外の世界の動き、特に、世の中の手本となるような事実に触ることは極めて貴重な機会となっている。実行委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

### 1. 賀茂鶴酒造の概要

賀茂鶴酒造の第一期創業年は元和9年（1623年）。当時の参勤交代制度によりこの地（現在の西条市）に御茶屋本陣がおかれて、この本陣を訪れる大名に差し出す御用酒として賀茂鶴の前身「小島屋木村家」により酒造りが始まったという。明治6年（1873年）9月9日には、業を継いだ木村和平氏が「賀茂鶴」という酒銘を命名したのが、同社にとって第二期の始まり。「賀茂」は地名である賀茂のほかに、酒を造る（醸す・かもす）という意味を表現し、「鶴」は気高い瑞鳥・鳥の王様、つまり「品質最高」を表している。大正7年（1918年）には家業から企業への脱皮、そして「賀茂鶴」の飛躍的発展を目指し、オーナー企業としてではなく、広く資本金を集め、賀茂鶴酒造株式会社として法人組織に変更されている。現在の資本金は1000万円、製造場として、醸造業3、精米蔵1、瓶詰工場1、原酒貯蔵庫3、商品倉庫5を保有している。従業員数は平常時に約80名、酒造時には約110名を擁している。

## 2. 「すべては最高のために」という事業経営の姿勢

歴史を重ねる老舗企業では、これまでを、そしてこれからもその企業を精神的に支えている独特の文化が育っていることに触れるのが楽しみである。この蔵の「酒造りへの想い」は、いくつかの珠玉の言葉で表現されている。この企業の事業への姿勢である。そのいくつかを紹介しておこう。

### (1) 「至高への道」 酒神が舞い降りた蔵

「仕込みの時期を迎えて賀茂鶴の酒蔵は、この世の物とは思えぬ香りで満たされます。酒作りに全身全霊を傾けた蔵人の士気を高揚させるこの芳香もまた、酒蔵に舞い降りた酒神の粋な計らい。」

明らかに神がかっている。ここでは酒造りは、いわばミッションの域に達しているのであろう。その仕事に全身全霊を傾けてなお、人知と人技の及ばないところを神の加護に託す。ここに働く人たちの毎日は、宗教者そのに近くなっているのであろうか。組織文化論の原点に触れた想いである。

### (2) 「杜氏入魂」 技と魂で賀茂鶴を醸す

「賀茂鶴の蔵人は、広島杜氏の本流、名杜氏殷畠政治之助直系の流れをくむ杜氏集団。伝承の技を受け継ぎ、おいしさを守り続ける蔵人たちです。明治時代には吟醸仕込みを昭和に入ってからは、大吟醸仕込みを他に先駆けて開発。酒造りへの情熱と技、真摯な心が賀茂鶴の品質を支えます。」

明らかに長い歴史を感じさせる。「おいしさを守り続ける」という、素朴な想いを、全社あげて歴史に乗せていく営みの日々。「企業を発展させる」というよりも、「人の情熱と技、真摯な心」を、中断することなく積み重ねていくことが、あらゆる事業の根底を支配しているのではないだろうか。

### (3) 「素材厳選」 自然の恩恵に感謝

「広島県のほぼ中央に位置する西条は、四季を通じて高原特有の澄み切った大気に覆われ、豊かな緑に囲まれています。この自然の恩恵に感謝を捧げ、厳選素材のみで造る賀茂鶴は創醸以来、変わらぬ姿勢を貫いています。」

自然の恵みをどれだけ生かせるかがビジネスの成否を左右する。そう思うことが多い。ここでは「酒米」と「水」。商業の世界には「お客様は神様です」「お客さま感謝の集い」などというのがあるが、それとは次元を異にするように思える。

### (4) 心魂傾注

「あふれる熱情、昂揚する想いを永久に」

これこそ、ものづくりの考え方の原点に触ることのできる言葉といえる。優れた素材に、杜氏の技と真摯な心が一体となることで、酒という「いきもの」に命を吹き込んでいるのであろう。

## 3. 経営理念と杜氏集団

同社の社是として「品質第一」が掲げられ、この社是のもと、すべてを自家精米・自家醸造している。中でも特等以上の品種を扱う1号蔵では、今日においても「手造り」であることにこだわっているという。冬の季節には14名ほどの杜氏集団によって、酒造りがおこなわれる。2号蔵では、酒造りを通じた若手の技術者を育てる事が行われている。しかし、これだけでは経営は成り立たなくなっていると言い、1つの蔵では、製造過程をコンピュータ化し、効率性も追求した生産も行われている。

賀茂鶴の品質の追求にあたっては、広島の酒米、中国山地に育まれた水が重要であることは言うまでもないが、それを1つの芸術作品としてまとめあげていくのは、やはり杜氏の役割である。酒造見学中にお聞かせいただいた話やVTRの間に、「杜氏の技術」、「杜氏の経験」、「杜氏の知恵」といった言葉が端々に登場してくるのは印象的であった。

酒造会社において杜氏が主として活躍するのは秋から春にかけての約半年間であり、杜氏は蔵元から酒造りにかかる全責任を請け負い、酒造りにあたる。請負関係であり、蔵元からは口を出されることもないが、その「作品」を作り上げることに魂を込められているという。

今日では製造業において請負業を活用する機会も多くみられるのだが、蔵元と杜氏のような信頼関係、継承されてきた技術関係はみられるだろうか。

#### 4. この企業から学ぶもの

日本酒という芸術作品を造り上げるにあたって、その根幹となる部分を杜氏を中心とした外部集団に任せせるようなケースは他の分野には多くみられないかもしれない。しかし、その技術や精神が尊重され、活かされていることからは多くの示唆が得られるのではないだろうか。また、賀茂鶴酒造の見学後、訪問した株式会社サタケとの縁も興味深い。サタケの開発した機械式精米機が賀茂鶴酒造（当時の木村酒造）に納められてきたことにはじまり、酒米、水、杜氏に次ぐもう1つの資源として卓越した精米技術などを提供する地域の企業とのつながりも重要であるように思われた。



## 株式会社サタケの視察を終えて

近畿大学経済学部 田中 敬一

2010年9月10日の第53回実践経営学会全国大会の初日は広島地域企業視察の一つとして株式会社サタケへ訪問させていただきました。会員33名の参加者一同が貸し切りバスに乗車し、東広島市の広島本社に伺いました。会報担当理事からの要請により、簡単にご報告させていただきます。

### 1. 株式会社サタケの概要

株式会社サタケは1896年（明治29年）の創業で、1世紀以上にわたり穀類加工技術の研究開発に取り組みをされて、米、麦、コーンの三大主食の穀物加工技術分野において、世界のトップ企業としてご活躍をされている企業です。従業員数は970名（2010年7月末現在）、売上高484億円（2010年2月期）の企業として、日本はもとより、世界140カ国を越える国々へ輸出販売している技術開発型の企業です。創業者は佐竹利市氏であり、1896年にエンジンで動かす精米機を発明し生産を開始したのが始まりです。現在は佐竹利子氏が代表を務められています。

### 2. 製品・市場・技術とその特色

事業分野では「米の分野」、「小麦粉の分野」、「食品の分野」、「環境の分野」、「産業機械の分野」の5つの分野を展開されておられます。特に米の分野は創業当初からの取り組みの分野であり、米の栽培から収穫、精米・加工までのすべての各工程で利用するすべての機械を生産されており、世界No.1のシェアを誇っておられます。精米関連の機器では、業務用精米機、醸造用精米機、光選別機、無洗米製造装置など多種多用途の製品を生産されており、また、家庭用精米機も販売されており自宅で精米仕立てのおいしいお米を食べる技術を提供されています。

国内市場は広島と東京の2箇所に本社を置かれ、その他全国に16箇所の営業所を設置されています。国内シェアは大型精米工場70%、カントリーエレベータ40%、ライスセンター35%、農家用乾燥機25%、農家用粉碎機50%という非常に高いシェアを持っておられます。また、国際市場ではアメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・タイ・中国・インド・ブラジルへネットワークを構築され、特に北米市場の近代的精米プラントでは98%のシェア、アジアでも同様に70%のシェアを誇っておられます。

これは、サタケが持っている研究開発技術が世界的に評価されている証拠であり、100年以上にわたって研究開発を行ってきた成果と見ることができます。また、アフターサービスの点からも、質の高いものを提供されており、365日24時間提供できる体制を構築され、トラブルが起こった場合の部品の納品体制も充実したものとされています。

### 3. 今日までの成長・発展の経緯

株式会社サタケは1896年創業の100年企業として今まで成長し続けてきた企業であり、米に代表される穀物加工の技術に焦点を合わせて取り組んで来られた発明企業です。創業者の佐竹利市氏は人間の足踏みではなくエンジンを使った機械で精米を行う仕組みを発明された人物です。また、その長男である佐竹利彦氏も父の技術を理論化し、発展させた研究者だったそうです。その伝統が受け継がれて、現在では300名以上のエンジニアが日々研究開発に取り組んでおられ、今日の技術開発企業へと大きく発展したと思われます。そこで得られた技術は特許として3000件以上を所有されていることからも「技術のサタケ」が今日の世界のトップ企業として活躍されている所以と考えられます。

### 4. おわりに

今回の企業視察では穀類加工技術の最先端技術を実際に見せてもらうことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。特に選別機ではセンサーにより不純物や不良品の選別が行われ、センサーによって不良品と判断された場合には、空気銃を使った圧縮空気で選別される仕組みが大変すばらしい技術であり、サタケの技術力のすばらしさに感動を覚えました。さらに、株式会社サタケは研究開発のみを行っているだけではなく、食を通して社会に貢献できる企業で有り続けるという取り組みが多くの場面で感じられました。サタケの企業理念として

- ・我らには世界最高の商品を開発・普及する使命がある。
- ・我らには顧客への奉仕と文化の向上を期する責任がある。
- ・我らには絆親和の下、会社と従業員の繁栄を図る義務がある。

が掲げられ、社会の発展に貢献していく様々な取り組みがされています。このような企業であるが故、成長していくのだと思われます。今後も食の技術をとおして社会に貢献される企業に成長し続けていただきたいと感じました。見学会終了後には、家庭で手軽に食べることができる「マジックライス」と「楽メシ」の試食販売があり、購入させていただきました。おいしいお米を食べられるのが楽しみです。末筆ではございますが、今回このような企画を設定していただきました全国大会実行委員長小原久美子先生、株式会社サタケ、ならびにご協力いただきました皆様方に深く感謝申しあげます。



選別加工総合センターで製品の説明を受けている様子（撮影：矢野芳人氏）

## 第53回全国大会会員総会の主な報告・審議事項

2010年9月11日に広島県情報プラザで開催された第53回全国大会会員総会における主な報告・審議事項は次の通りです。なお、第42期は2009年4月1日から2010年3月31日まで、第44期は2011年4月1日から2012年3月31日までです。

### 主な報告事項

#### 1. 第42期事業報告

##### ①第52回全国大会の開催

2009年9月11日～13日、「地域振興と観光事業」を統一テーマとして石巻専修大学にて開催(大会実行委員長・晴山俊雄)。

##### ②機関誌『実践経営(第46号)』の刊行

2008年9月開催の第51回全国大会(長崎県立大学)の研究報告のうち、機関誌編集委員会が選定したレフェリーを経た論文を所収したもの2009年8月に発刊。

##### ③学会活動等の情報発信

- ・学会会報の発行(2009年4月号、2009年11月号)
- ・学会ホームページの更新頻度の増加、内容の見直しの実施

#### 2. 第42期支部活動報告

本会報22～24ページに掲載。

#### 3. 第42期研究活動報告

本会報25～27ページに掲載。

#### 4. 第43期事業中間報告

##### ①支部開催状況

- ・関東支部会(2010年5月22日、会場：東洋学園大学、関東支部長：金子義幸、事務局長：平野賢哉)
- ・関西支部会(2010年5月22日、会場：流通科学大学、関西支部長：井形浩治、事務局長：田中敬一)
- ・北陸支部会(2010年6月6日、会場：オーパスカナルパークホテル富山、北陸支部長：水谷内微也、事務局長：安藤信雄)
- ・東北支部会(2010年7月10日、会場：仙台白百合女子大学、東北支部長：吉田信一、事務局長：浅野浩子)
- ・中部支部会(2010年7月24日、会場：中京大学、中部支部長：大島俊一、事務局長：向日恒喜)

##### ②機関誌・研究論文集の刊行

- ・機関誌『実践経営(第47号)』の発刊(2010年9月)
- ・研究論文集『実践経営学研究第2号』の発刊(2010年9月)

##### ③研究会活動の成果発表の支援

- ・顧客価値からの発想研究会(責任者：後藤俊夫)の研究「題名：21世紀の実践経営モデル」の発刊(2010年9月)。

##### ④学会活動の情報発信

- ・会報発行：『実践経営学会会報』の発行(2010年4月号)
- ・ホームページのリニューアル

#### 5. 第54回全国大会当番校報告

2011年開催の第54回全国大会は、富士大学(大会準備委員長：吉田信一)を当番として行うこととした。

**6. 第42期学会賞の審査報告**

本会報15ページに掲載。

**7. 第43期学会賞応募要項**

本会報15ページに掲載。

**主な審議事項** \_\_\_\_\_

**1. 第42期決算に関する件**

本会報12ページに掲載。

**2. 第42期会計監査報告**

本会報12ページに掲載。

**3. 第44期事業計画に関する件**

① 機関会議の実施

会員総会（全国大会時）のほか、理事会、常任理事会、監事会等を適時に開催予定。

② 地域支部会による研究発表会等の活動支援

全ての会員が地域ブロック毎に設置された地域支部に所属する体制をもとに、各地域支部にて研究発表会等の活動を積極的に支援。

③ 研究会活動の成果発表の支援

総予算20万円を限度に研究会活動の成果発表を支援。

④ 研究成果の積極的な公表

機関誌「実践経営」の刊行と論文集「実践経営学研究第3号」の刊行。

⑤ 年2回の学会会報の刊行

学会執行部の運営方針、学会の最近の動向等を伝える学会会報の刊行。

⑥ 第54回全国大会の開催

⑦ 会員名簿の整備・発行

発行する会員名簿の内容の検討と発行。

⑧ 学会ホームページの充実

⑨ 第55回全国大会当番校の依頼

**4. 第44期予算に関する件**

本会報13ページに掲載。

**5. 規約改正に関する件**

本会報14ページに掲載。

**6. 次期理事、会長、監事及び学会賞審査委員の承認・報告に関する件**

次期理事及び会員総会の承認を経た次期理事及び執行部、学会賞審査委員は本会報21ページに掲載。任期は2011年4月～2014年3月（第44期～46期まで）。

# 第42期 収支決算書

自 2009(平成21)年4月1日 至2010(平成22)年3月31日

(円)

収入の部				支出の部			
勘定科目	実績 A	予算 B	予算比 A-B	勘定科目	実績 A	予算 B	予算比増減 A-B
前期繰越金	4,838,628	4,838,628	0	全国大会費	450,000	450,000	0
入会金・会費収入	4,900,000	4,400,000	500,000	支部研究発表会費	330,000	330,000	0
受取利息	5,303	1,500	3,803	会報発行費	339,502	300,000	39,502
雑収入	17,652	50,000	△ 32,348	機関誌発行費	1,180,326	1,100,000	80,326
				ホームページ創設維持費	275,050	320,000	△ 44,950
				経済学会連合会分担金	35,000	35,000	0
				経営関連学会協議会分担金	30,000	35,000	△ 5,000
				奥野記念基金繰入	100,000	100,000	0
				理事会費	179,847	200,000	△ 20,153
				旅費交通費	330,080	730,000	①△ 399,920
				通信費	110,082	210,000	①△ 99,918
				消耗品費	60,187	162,000	①△ 101,813
				学会賞費	16,600	100,000	②△ 83,400
				事務局運営費	90,000	120,000	△ 30,000
				プロジェクト費	0	100,000	△ 100,000
				雜費	9,531	50,000	△ 40,469
				予備費	0	100,000	△ 100,000
				支出合計	3,536,205	4,442,000	△ 905,795
				次期繰越金	6,225,378	4,848,128	1,377,250
収入合計	9,761,583	9,290,128	471,455	支出・繰越合計	9,761,583	9,290,128	471,455

郵便振替口座	1,647,160	40周年記念奥野基金(定期預金)	2,000,000
三菱東京UFJ銀行(新丸の内)	4,778,218	40周年記念奥野基金	200,000
三菱東京UFJ銀行(定期預金)	2,000,000	次期繰越金	6,225,378
合計	8,425,378	合計	8,425,378

## 主な予算増減の内訳・説明

- ①「旅費交通費」「通信費」「消耗品費」の予算比減少は、常任理事会や監事會、事務局会議その他の打ち合わせを同日開催するなど、会議日程の効率化を図った結果、会議参加への交通費や書類発送費、資料作成費などが減少したためである。
- ②「学会賞費」の減少は、第41期学会賞の受賞者が1件のみで、賞状および記念品代が減少したためである。

## 監査報告書

第42期収支決算書について、預金通帳その他の書類に基づいて監査した結果、収支の状況を適正に表示しているものと認めましたので、ご報告申しあげます。

2010(平成22)年5月22日

監事 金子 義幸 

監事 萩下 峰一 

# 第44期 収支予算書

自2011(平成23)年4月1日 至2012(平成24)年3月31日

(円)

収入の部				支出の部			
勘定科目	44期予算 A	前期予算 B	予算比増減 A-B	勘定科目	44期予算 A	前期予算 B	予算比増減 A-B
前期 繰 越 金	1,922,420	1,922,420	0	全国 大会 費	450,000	450,000	0
入会金・会費収入	4,600,000	4,600,000	0	支部研究発表会費	330,000	330,000	0
受取 利 息	4,000	4,000	0	研究会活動支援費	200,000	200,000	0
雜 収 入	50,000	50,000	0	会報発行費	350,000	350,000	0
				機関誌発行費	1,200,000	1,200,000	0
				ホームページ維持費	320,000	320,000	0
				経済学会連合会分担金	35,000	35,000	0
				経営関連学会協議会分担金	35,000	35,000	0
				奥野記念基金繰入	100,000	100,000	0
				理 事 会 費	200,000	200,000	0
				事 務 局 運 営 費	200,000	200,000	0
				旅 費 交 通 費	730,000	730,000	0
				通 信 費	210,000	210,000	0
				消 耗 品 費	162,000	162,000	0
				学 会 貸 費	100,000	100,000	0
				理 事 選 挙 運 営 費	0	250,000	①△ 250,000
				会 員 名 簿 発 行 費	300,000	300,000	0
				プ ロ ジ ェ ク ト 費	100,000	100,000	0
				雜 費	50,000	50,000	0
				予 備 費	100,000	100,000	0
				支 出 合 計	5,172,000	5,422,000	△ 250,000
				次 期 繰 越 金	1,404,420	1,154,420	250,000
	6,576,420	6,576,420	0	支 出・繰 越 合 計	6,576,420	6,576,420	0

奥野記念基金(期首)	2,300,000	2,200,000	100,000
第43期繰入額	100,000	100,000	0
奥野記念基金(期末)	2,400,000	2,300,000	100,000

## 主な予算増減の説明

①理事選挙終了に伴う減額である。

## 実践経営学会規約改正について

第53回総会において規約が下記のように改正された。

	改正前	改正後
第10条3項	会長の任期は <u>1期3年として、再選出来ないものとする。また事務局長の任期は連続2期6年として、3期連続出来ないものとする</u>	会長の任期は3年とし、再任は1度に限りできるものとする。また事務局長の任期もまた会長の任期と同様とする。

下線部が改正部分である。

(改正の経緯)

平成22年9月11日に広島県情報プラザで開催された第53回総会において、規約第10条3項の会長の任期について、再任を認め、事務局長の任期と同様に2期6年までとする改正案および改正案が可決された場合には、同改正案を直ちに施行する旨の動議が提出された。そして、この動議の提出を認めるか否かについて採決を行ったところ、賛成多数で動議の提出が認められた。次に動議によって提出された改正案および施行期日について審議を行った。この際、議長である平野文彦会長は、利害関係者となるため議長を田中道雄副会長と交代の上、同改正案の審議が終了するまで一時的に退席した。その後、田中道雄議長代行により審議が行われ、採決の結果賛成多数で同改正案および施行期日が提案通り認められた。

## 会員の異動（入会・退会）

第43期第1回～3回常任理事会（2010年4月～2010年9月開催）において、入会および退会が認められた方は次の通りです。

### 入会会員 13名

#### ●北海道支部

中川 充 北海道大学大学院博士後期課程

#### ●東北支部

岡野 知子 石巻専修大学経営学部  
松本 力也 岩手県立大学宮古短期大学部

#### ●北陸支部

鳥羽 達郎 富山大学経済学部

#### ●関東支部

岡星 竜美 (株)シリウス代表取締役  
草刈 利彦 パトス・コンサルティング・ファーム  
嶋田 美奈 ハリウッド大学院大学  
花田 哲郎 極東石油工業(株)  
矢崎 陽子 山梨大学大学院博士課程  
柳 義久 NPOちゅうおう経営支援センター理事  
山崎 隆由 KCGコンサルティング・グループLLP

#### ●中部支部

山田 國雄 名古屋大学大学院博士後期課程

#### ●九州支部

劉 定銘 鹿児島国際大学大学院博士後期課程

### 退会会員 21名

石井 強	井上 博文	金井 信介	榊 俊作	佐藤 徹	佐藤 研司
濱谷 覚	清水 昇	竹内 庄治郎	豊谷 純	中庭 光彦	畠中 和義
兵田 賢計	藤波 克之	藤森 俊一	水城 実	水野 伸昭	森兼 進
山本 一彦	宜川 克	渡辺 美子			

## 第42期(平成21年度)実践経営学会学会賞について

学会賞審査委員会  
審査委員長 宮田矢八郎

### 1. 学会賞の審査対象

審査の対象となる著書・論文は、「会員が、前年度に於いて、本学会大会（支部研究報告会を含む）で報告された論文、若しくは、公刊された著書・論文」である。第42期（平成21年度）の学会賞対象論文は30本である。

### 2. 学会賞選定

対象著書・論文を委員会において慎重に審査した結果、以下の著書を学会賞として選定した。

**学会賞** 1. 著書・論文名 該当なし

**名東賞** 1. 著書・論文名 該当なし

**学術研究** 1. 著書・論文名

**奨励賞** 日本大学大学院教授 平田光子氏「企業成長における創業者精神の機能と活用」

#### 【理由】

創業者精神を企業成長のための経営資源のひとつと捉える視点に独自性と新規性が認められます。その検証のために具体的な事例企業2社へのアンケートと聞き取り調査によって、成長企業の場合はそれが組織内に浸透、活用されていることを実証した点が高く評価されます。

他方で、平田氏自身が本研究を「初期の研究」としており、今後の継続研究を奨励するという意味から学術研究奨励賞としました。

#### 審査を終えての全体的講評

平成21年度の学会賞の審査対象は宮重徹也氏の「図解雑学 医薬品業界のしくみ」と学会誌『実践経営No46』掲載論文(30)でした。

宮重氏の著作は懇切丁寧で、また同氏の論文「日本の製薬企業におけるM&Aの類型化」も高水準で学術研究奨励賞に相応しいと思われたが、同氏は平成17年度に同賞を受賞しており、その視点から授賞から外しました。

他の論文で優れていると評価があったのは、李為「市場転換の比較研究」、上住好章・林敬孝「CSRに関する最近の動向と企業におけるCSR効率の追跡と計画」、後藤俊夫「ファミリー企業の長寿性とイノベーション」、グエン・チ・ギア「経営学における新たな貧困削減の原動力」、多田和美「海外子会社の製品開発活動の比較分析」、小泉修平「敵対的買収における企業価値向上の課題と方策」、山田敏之・福永晶彦「企業倫理の再生とミドルの役割」、平野賢哉「中小企業における高齢者活用と雇用問題」、島田裕二「建設業に於ける施工機械化の進歩と元請・下請の相互関係」、原靖「中国の新労働契約法の理念と経営論からの評価」、李善馥「韓国における会計制度の改革と企業経営に与える影響」が指摘されました。研究を継続していただき著作としてまとめれば、高水準の研究となることが期待されます。

## 第43期実践経営学会学会賞の募集要項

学会員を対象として第43期実践経営学会学会賞、名東賞、学術研究奨励賞を次の要領にて募集します。

### 1. 対象作品

平成22（2010）年4月1日から平成23（2011）年3月31日までに発刊（初版本に限る）または発表された著書または論文のうち本募集要項に基づいて提出されたもので、自薦または会員の推薦によるものとします。

なお、同期間中に発刊された学会機関誌に掲載された論文は、本募集要項に基づいて提出されたものとみなします。

#### ①学会賞

企業・産業に関する理論研究の発展に寄与する優秀な著書または論文

#### ②名東賞

企業・産業に関する実証・実践研究の発展に寄与する優秀な著書または論文

#### ③学術研究奨励賞

企業・産業に関する実態調査の発展に寄与する優秀な著書または論文

### 2. 応募要領

当該著書3冊に、著者名・著書名（論文の場合にはその抜刷またはコピー3部に執筆者名及び掲載誌名）、発行所名等を明記した書面を添付してください。なお、応募された作品は、返却しませんのでご留意ください。

### 3. 締め切り

平成23（2011）年4月30日 必着

### 4. 選考

学会賞審査委員会

### 5. 発表及び表彰

会報等に掲載するほか、第54回全国大会（会員総会）の席上で賞状及び記念品等を贈呈

### 6. 送付先（学会本部）

日本大学経済学部内、実践経営学会会長 平野文彦

〒101-8360 東京都千代田区三崎町1-3-2

TEL&FAX: 03-3219-3455

### 7. 問い合せ先（学会本部事務局）

中部大学経営情報学部 山北晴雄

TEL: 090-7209-5839 E-mail: jsam.honbu@gmail.com

## 第54回全国大会は富士大学で開催

一平成23年8月31日(水)・9月1日(木)・9月2日(金)に決定

第一日目の8月31日は企業等の見学と理事会等を予定。この機会に宮沢賢治、新渡戸稻造、高村光太郎、萬鉄五郎らのふるさと、岩手県花巻市をお楽しみください。温泉も。

アクセスの一例：

- 東京 07:04 (新幹線やまびこ) ~09:59 北上→バス。
- 東京 09:56 (新幹線はやて) ~11:37 仙台 11:42 (やまびこ) ~12:32 北上 (2時間36分)。
- 大阪国際空港 (伊丹空港) 09:55 (JALエクスプレス) ~11:20 いわて花巻空港

詳細は次の会報ならびに学会ホームページにてお知らせいたします。

年が変わりましたら、さっそくにスケジュール表にご記入をお願いいたします。

## 実践経営学会 成果発信シリーズ刊行の趣旨

会長 平野 文彦 (日本大学)

本学会には査読論文を主体とした機関誌『実践経営』が年に一度刊行されておりますが、学会として研究成果を社会に発信していくためには、何かリーフレットのようなものを刊行できないだろうかと、何年も前から考えてきました。そこで2008年4月に始まる現行の運営体制の中で、常任理事会での提案・討議を経て、2009年の全国大会における総会で承認と若干の予算措置をいただき、このたび、ようやく『実践経営学会研究成果発信シリーズ』として実現するに至りました。

本学会には、予算措置を伴わないものの、年度はじめに公募が行われて学会の公認のもとで自主的に研究活動を行っているいくつかのグループがありますので、今回はとりあえず、その中から執筆いただけるグループを募りましたところ、後藤俊夫会員を会長とする「顧客価値研究会」から手が上がりました。そこで2010年6月の常任理事会において検討した結果、これを発刊することが決定され、「実践経営学会 研究成果発信シリーズNo.1 「21世紀の実践経営モデル」(2010.10) として発刊いたしました。

本学会は、名称に「実践」の二文字を冠していることから、現実的な研究テーマに取り組む会員が少なくありません。また何人かの会員が集まって自主的に研究活動に取り組むケースも見られるところです。伝統的に“人と人のつながり”を大切にしてきたこの学会の特色といえるかもしれません。

一つの学問分野として確立するには至っていないものの、一つの有意義な問題提起として、あるいは一つの提言として、さらには社会に求められている新たな専門分野づくりのための基礎的研究の成果報告として、この「成果発信シリーズ」が活用されていくならば、本学会の社会的評価もますます高まっていくものと考えます。

なお、現在のところは、1年に1シリーズの刊行が精いっぱいですが、やがて予算にゆとりがあれば、年に2本くらいは刊行していきたいものです。また今後は市販の可能性も検討していくたいと考えています。

毎年、このシリーズが積み上がっていいくことは関係者にとって大いに喜びとするものです。今後、会員同士の共同研究がますます活発に進められていきますことを念願するものです。

2010.8.25

## 第6回日中韓経営管理学術大会を振り返って

大会代表 横澤 利昌（亜細亜大学）

実践経営学会の中に立ちあがっている日中韓経営管理研究会が主体となって、わが実践経営学会と上海市経済管理幹部学院、及び（社）韓国実践経営学会が共催した第6回日中韓経営管理学術大会が、2010年10月22～24日の日程で東京・六本木ヒルズのハリウッド大学院大学（山中祥弘理事長・学長）を開催された。

テーマは「21世紀の東アジアの経営を創る」。私はあいさつの中で次のように述べた。

「この大会は、日中韓の調和と共生を目指すと共に、21世紀人類の歩むべき方向を示すべく、三か国独自の歴史や文化の歩みと共に構築してきた経営哲学及び多様な経済・経営モデルとを検し、これを新たな国際的経営に寄与する欧米とは異なる東アジア独自のモデルとして再構築の上、内外に発信し、実践に向けて取り組もうとするものである。これは、他国を排除するのではなく、むしろ広く世界に受け入れる体制が重要である。」

基調講演を元・早稲田大学総長・西原春夫氏にお願いした。4年前に著された『日本の進路 アジアの将来』（講談社）は、近年、相当の変化を遂げているとは言え、今日でも多くの本質的な方向を示しているように思われる。分科会は7部門。環境対策の問題や企業の社会的責任（CSR）、コーポレートガバナンス、ファミリー・ビジネスの他、IT、会計等をめぐる自由論題が展開されたが、今年は特に、会場校のハリウッド大学院大学が総合的な「美学」を追求されていて、アジア諸国に受け入れられていることに鑑みて、ビューティ・ビジネス部門を加えて質の高い発表や議論が繰り広げられた。

今回は尖閣諸島の問題もあり、直前になって開催さえが危ぶまれたが、中国から18人、韓国36人、総勢85人の参加があり、2005年上海での第1回開催されてから今年で第6回目の国際大会を盛況のうちに終了することができた。これまでいろいろ紆余曲折を経ながらここまでたどり着いたのは、交流の大切さ、継続の大切さを認識する、志を同じくする学会の仲間の力である。心から御礼を申し上げる。

留学生が「自国と日本の架け橋になりたい」という思いに刺激を受け、それなら我々も未来の東アジアの架け橋を創ろうと思い、先ず2002年に韓国との交流、2005年に中国に呼びかけた。これまでに分かったことは、「お互いに相手の国に関してあまりにも認識不足である」ということだ。マスコミの情報がすべてではない。

今後とも細部にとらわれず長期の視点で全体像を外観・内観して物事に対処していくかなければならないと考える。この大会が橋渡しになり経済産業省と上海市との研究会も開催されている。

最後にこの大会に命を捧げた故・金 鉄成氏のためにも今後も続けていかなければならぬという思いを強くしている。

大会の成功には多くの方々のご尽力があった。記して感謝の意を表したい。特にこの研究会、大会を陰に陽に支えてくれた実践経営学会・平野文彦会長に感謝する次第である。

経営関連学会協議会の第3回シンポジウムが下記の通り開かれました。

## 経営学教育の質保証

日 時 平成22年11月21日(日) 14時00分～17時30分

会 場 専修大学 神田キャンパス(7号館 3階731教室)

### プログラム

総合司会 西田 安慶 (JFMA副理事長・日本企業経営学会・中部学院大学)

開会の辞 野村 健太郎 (JFMA副理事長・国際会計研究学会・愛知工業大学)

#### 基調講演

趣旨説明・講師紹介 能勢 豊一 (JFMA副理事長・日本経営工学会・大阪工業大学)

北原 和夫先生 (国際基督教大学)

(日本学術会議「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」委員長・連携会員)

#### テーマ

「大学教育の分野別質保証のあり方について～日本学術会議の検討～」

#### パネル・ディスカッション

司会

平野 文彦 (JFMA理事・実践経営学会・日本大学)

奥林 康司 (JFMA理事長・日本労務学会・摂南大学)

#### 趣旨説明

高橋 誠 (JFMA理事・日本創造学会・日本教育大学院大学)

#### パネリスト(敬称略)：

北原 和夫 (日本学術会議連携会員・日本物理学会・国際基督教大学)

藤永 弘 (日本学術会議連携会員・日本会計教育学会・青森公立大学)

阿部 周造 (JMFA理事・日本商業学会・早稲田大学大学院)

林 正樹 (JFMA理事・日本経営学会・中央大学)

野々山 隆幸 (JFMA副理事長・日本経営システム学会・横浜市立大学)

#### 閉会の辞：

松原 成美 (JFMA評議員・日本会計研究学会・専修大学名誉教授)

## ◎研究会に参加しませんか

ご関心のある方、参加を希望される方は、代表者までメールまたはFAXにてお知らせください。

研究会名	代表者	問合せ先
顧客価値からの発想研究会	後藤 俊夫(光産業創成大学院大学)	tsgoto@gpi.ac.jp FAX : 053-487-3012
CNWシステム研究会	平出 洋	hhiraideh@silver.livedoor.com FAX : 03-3325-1258
教育科学マネジメント研究会	田口 ヤス子(日本体育大学)	yasuko.taguchi@eagle.ocn.ne.jp FAX : 03-3754-7963
日中韓経営管理研究会	横澤 利昌(亞細亞大学)	yokozawa@asia-u.ac.jp FAX : 0422-55-2700
和菓子老舗の経営理念および経営方法をめぐる伝統と革新に関する事例研究会	平野 文彦(日本大学)	増山正紀 masakim@wine.ocn.ne.jp FAX : 0942-43-4646
高齢者介護事業における外国人介護士の雇用に関する経営者の意識をめぐる事例研究会	藤田 紀美枝(日本橋学館大学)	fujita@bloom.ocn.ne.jp FAX : 04-7163-0096

## ◎もうお届けはお済みですか

### 会員名簿を整備しています

実践経営学会は会員相互の交流を通じて、お互いに切磋琢磨しながら、知的情報を国内外に発信できることを目指していますが、そのための基盤としての会員情報の整備がかねてから課題となっていました。

そこで単なる連絡網としての名簿にとどまらず、会員の主たる研究・関心の領域、最近における研究テーマなども織り込んだ「知的データサービス」として会員名簿を再構築していくたいと考えています。また、研究会の立ち上げ、論文の査読者の選任、大会におけるコメントーターのお願いなどの際の資料とさせていただきます。

そのため、すでにこれまでの会報でもご協力をお願いしたところですが、その後の追加・変更を含めまして、次頁の項目について、事務局へのご報告をお願い致します。

なお個人情報に深く関わりますので、データの管理・名簿の作成・発行につきましては、事務局が慎重を期すことといたします。

報告項目	内 容	学会で発行する会員名簿への記載の諾 (○) 否 (×) の別
①氏名（アルファベット表記も）		
②年齢（2010年4月1日現在）		
③自宅住所・電話番号		
④メールアドレス		
⑤所属機関名と部署（学部等）		
⑥所属機関における部署・（役）職等		
⑦所属機関の所在地、郵便番号		
⑧所属機関の電話番号、FAX番号		
⑨元職等		
⑩専門領域（経営学、労働経済学、発達心理学、地域社会学等）		
⑪主たる関心（老舗企業、ベンチャービジネス等）		
⑫主たる論文または著書（発行所、発行年も明記）		
⑬郵便物の送付先		

●ご報告の方法；メールまたはFAXでお願いいたします

〈学会本部事務局〉

中部大学経営情報学部経営情報学科 山北晴雄研究室内  
E-Mail : jsam.honbu@gmail.com FAX : 0568-52-1505

◎住所・勤務先等の変更届のお願い

住所や勤務先が変更となった会員の方は、学会事務局（FAX : 0568-52-1505、E-mail : jsam.honbu@gmail.com）まで、ご一報くださるようお願い申しあげます。

## 2011年4月からの実践経営学会新役員

2010年7月に行われた実践経営学会役員選挙の結果（選挙管理委員会・室本誠二委員長）を受けて、2011年4月に始まる新会長案が、9月10日の旧理事会および新旧合同理事会に平野文彦会長から提案された。しかし、新旧合同理事会では「何とか平野会長に継続をお願いしたい」とする修正案が出され、賛同者が多数であったことから、その旨を平野会長に伝えたところ、「まだ他にもやりたい仕事があるので」という理由で固辞されたが、新旧理事会の総意であることで了解をいただき、会員総会における所定の手続きを経て平野会長の継続が承認された。

なお次期役員の体制については、平野会長に十分な検討時間がなかったことから、以下に掲げる通り、副会長に水谷内徹也会員（富山大学）および吉田信一会員（富士大学）をはじめとする新役員が紹介されたが、その他未決定の役員人事については、会長に一任することが総会において了承された。

決定を見た新役員は以下の通りである。

### 実践経営学会役員(2011年4月～2014年3月)

#### 会長

平野 文彦 日本大学

#### 副会長

水谷内 徹也 富山大学 吉田 信一 富士大学

#### 常任理事

浅野 浩子	仙台白百合女子大学	井形 浩治	大阪経済大学
金子 義幸	関東学院大学	中垣 昇	中京大学
平田 光子	日本大学	横澤 利昌	亜細亜大学

#### 理事

井原 久光	東洋学園大学	小原 久美子	県立広島大学
菊池 真一	北海商科大学	小坂 善治郎	東京富士大学
後藤 俊夫	光産業創成大学院大学	田口 ヤス子	日本体育大学
田中 敬一	近畿大学	田中 弘	前近畿大学
田中 道雄	大阪学院大学	竹内 進	目白大学
濱田 恵三	流通科学大学	日夏 嘉寿雄	帝塚山大学
日野 隆生	大阪国際大学	平野 賢哉	埼玉学園大学
藤田 紀美枝	日本橋学館大学	深澤 郁喜	秋草学園短期大学
三森 敏正	石巻専修大学	宮田 矢八郎	産業能率大学
村上 則夫	長崎県立大学		

#### 監事

萩下 峰一 山梨学院大学 松尾 敏行 株式会社リコー

#### 学会賞審査委員

井形 浩治（重任）	大阪経済大学	小坂 善治郎（新任）東京富士大学
後藤 俊夫（新任）	光産業創成大学院大学	水谷内 徹也（重任）富山大学

## 第42期支部活動報告 (2009年4月1日▶2010年3月31日)

### ◇東北支部 (吉田信一支部長・浅野浩子事務局長)

#### 1. 東北支部会 (第7回)

**開催日及び場所** 2009年6月6日、宮城大学

**報告者及び論題** 三森 敏正 (石巻専修大学)

「敵対的企業買収における防衛策の適法性」

大野 和巳 (青森中央学院大学)

「ポストM&Aにおける組織間関係の戦略的マネジメント」

村上 良三 (ハリウッド大学院大学)

「ワークライフ・バランスとしてのワークシェアリングへの期待と課題—ワークシェアリングの考え方と日本の展開—」

平野 文彦 (日本大学) 「経営労務におけるものづくり精神の重要性について」

#### 2. 東北支部会 (第8回)

**開催日及び場所** 2009年11月14日、花ごころの宿 渡り温泉

**報告者及び論題** ゲン・チ・ギア (東北大学大学院経済学研究科博士後期課程)

「アジアの農村地域の開発に関する経営学の新潮流—観光誘致、地域活性化について—」

村上 良三 (ハリウッド大学院大学)

「日本におけるワークライフ・バランスの実践～その課題と展開」

吉田 信一 (富士大学)

「『内部告発』と『内部告発の許容可能性』の考察—ダスカの所論を中心として—」

### ◇関東支部 (金子義幸支部長・平野賢哉事務局長)

#### 1. 2009年度第1回関東支部会

**開催日及び場所** 2009年5月30日、ハリウッド大学院大学

**特別講演** 西園寺 一見 (工学院大学孔子学院学院長) 「世界同時金融危機と中国経済」

**研究報告** 李 善馥 (東西大学校経営学部 (韓国・釜山) 副教授)

「韓国における会計制度の改革と企業経営に及ぼす影響について」

#### 2. 2009年度第2回関東支部会

**開催日及び場所** 2009年12月12日、日本大学経済学部

**報告者及び論題** 竹田 信夫 (中央大学)

「韓国・中国における実践経営研究の新動向」(第5回 韓中日国際学術大会参加報告)

横澤 利昌 (亜細亜大学) 「最近の老舗企業研究について」

**研究報告** 〈日本賃金学会との共同企画〉

西野 剛史 (ワタミの介護(株) ブランド推進部部長代行)

「ワタミの介護事業経営と介護労働について一人材の確保・育成・賃金の考え方—」

## ◇中部支部（大島俊一支部長・向日恒喜事務局長）

### 1. 第35回中部支部研究発表会

開催日及び場所 2009年8月1日、名古屋市中小企業振興会館 司会進行：大島 俊一

報告者及び論題 顧 丹丹（中京大学）「法改正と国有企業のコーポレート・ガバナンス」

松井 温文（追手門学院大学）

「マーケティングにおける実践と理論研究とのあり方—経済学的研究と経営学的研究の  
体系的峻別と特殊的融合」

高橋 秀雄（中京大学）「リレーションシップ・マーケティングとホスピタリティ」

### 2. 第36回中部支部研究発表会

開催日及び場所 2010年2月27日、中京大学 司会進行：大島 俊一

報告者及び論題 大野 貴司（岐阜経済大学）・奈良 堂史（横浜市立大学大学院・横浜商科大学）

「プロスポーツクラブの経営戦略の社会的構築—北海道日本ハムファイターズの事例から—」

加藤 淳（加藤淳税理士事務所）「窓口業務のヒューマンエラーについて」

中野 晴之（中野倉庫運輸㈱）

「財務会計、管理会計、税務会計における会計情報の連動に関する一考察」

## ◇関西支部（井形浩治支部長・田中敬一事務局長）

### 1. 第53回関西支部会

開催日及び場所 2009年6月27日、大阪経済大学、総合司会：田中 道雄（大阪学院大学）

報告者及び論題 永井 温郎（神戸大学大学院）

「商店街における組織の役割—商店街活動を通じた個店経営力の向上と商店街の発展メカニズムの促進—」 座長：田中 敬一（近畿大学）、コメンテーター：白石 善章（流通科学大学）

松井 温文（追手門学院大学）

「短期大学の授業科目に関する分析」 座長：李 炳（京都産業大学）、コメンテーター：  
吉村 泰志（帝塚山大学）

吉野 忠男（大阪経済大学）

「新たな起業家活動—資本金5万円起業の挑戦」 座長：深堀 謙二（大阪市）、コメンテーター：稻田 賢次（大阪学院大学）

ミニ・シンポジウム 「まちづくりと地域連携の課題」 座長：村上 則夫（長崎県立大学）、  
パネラー：市川 一夫（兵庫県立大学）、上田 誠（京都市）、鎌刈 宏司（大阪学院大学）、  
濱田 恵三（流通科学大学）

### 2. 第54回関西支部会、第7回関西・九州合同支部会

開催日及び場所 2009年12月5日、大阪学院大学、総合司会：稻田 賢次（大阪学院大学）

報告者及び論題 日夏 嘉寿雄（帝塚山大学）

「ビジネスエリートと学制」、座長：田中 道雄（大阪学院大学）、コメンテーター：李 炳  
(京都産業大学)

矢野 芳人（近畿大学）

「社会人に対する情報倫理教育の必要性に関する考察—職業訓練委託校を場としたカリキュラムの提案—」、座長：名渕 浩史（エヌ・エフェクト）、コメンテーター：石井 彰  
(石井ブランド戦略研究所)

志方 宣之・玄場 公規・石田 修一（立命館大学・院）

「製造業のサービス化による新たな付加価値の創出—介護保険レンタル制度下の電動

ペッドビジネスのサービス化事例一」、座長：辻本 乃理子（大阪健康福祉短大）、コメンテーター：深堀 謙二（大阪市）

**ミニ・シンポジウム** 「企業システム再構築の新たな視点」、座長：村上 則夫（長崎県立大学）、パネラー：井形 浩治（大阪経済大学）、小泉 修平（大阪産業大学）、吉村 泰志（帝塚山大学）、渡邊 孝一郎（神戸大学・院）

## ◇中国・四国支部（小原久美子支部長・青木秀行事務局長）

### 1. 第1回中国・四国支部会

**開催日及び場所** 2010年1月30日、宮島ホテル まこと、総合司会：青木 秀行（広島県社会保険労務士会）

**報告者及び論題** 板倉 宏昭（香川大学）

「地方企業における『地域ビジネスシステム』—地方発ビジネスのフレームワークの検討—」、座長及びコメンテーター：横澤 利昌（亜細亜大学）  
小原 久美子（県立広島大学）

「日本におけるCSR経営の現状と課題」、座長及びコメンテーター：藤田 紀美枝（日本橋学館大学）

藤田 紀美枝（日本橋学館大学）  
「ワーク・ライフ・バランスに関する一考察」、座長及びコメンテーター：川野 祐二（下関市立大学）

深澤 郁喜（秋草学園短期大学）

「CSRと実践経営一不二家事例を中心として」、座長及びコメンテーター：村上 良三（ハリウッド大学院大学）

**特別研究報告** 平野 文彦（日本大学）「実践経営学の課題と方法」

## ◇九州支部（村上則夫支部長・柿本義一事務局長）

### 1. 第7回九州・関西合同支部会

**開催日及び場所** 2009年12月5日、大阪学院大学、総合司会：稻田 賢次（大阪学院大学）

内容は「第7回関西・九州合同支部会」と同一。

## 第42期研究会活動報告 2009年4月1日▶2010年3月31日

**研究会 顧客価値からの発想研究会 研究会代表 後藤 俊夫**

本会は1995年発足以来、顧客価値、老舗企業、企業の寿命を中心テーマとして月例会を実施してきた。研究成果は『顧客価値経営』(1998年)、『老舗企業の研究』(2000年)として上梓、社会経済生産性本部と共にシンポジウムを実施している。なお、2004年以来、研究対象をファミリービジネスに拡大して今日に至っている。

2009年度は昨年度に引き続き、「ファミリービジネス表彰」事務局を主催者(FBNJなど)と緊密連携して担当した。更に、SHINISEホームページ立上げによる国内外への情報発信を企画する中で、慶應大学SFC、中小企業診断協会及び杉並区NPOとの提携が進み、当学会に3名が入会するなど着実な前進を見せてている。なお、今年度は実地調査を計4回(うち海外1回)実施した。

開催日及び場所	報告者及び題目等
4/11(土)~12(日) @千葉県香取市	2010年度第1回老舗実態調査(佐原地区) (株)正上、(株)虎屋、馬場酒造(株)、東薰酒造(株)
4/25(土) 15:00~20:00 @LODH会議室	1. 2009年度年間計画 2. 佐原地区老舗実態調査報告 3. FBNJ表彰関連
5/16(土) 15:00~20:00 @ASG会議室	1. 定例報告 2. 学会報告関連 3. FBNJ表彰関連 4. 日中韓合同学術大会への対応(FB分科会の進め方)
6/13(土) 15:00~20:00 @LODH会議室	FBNJ表彰について(FBNJ表彰部会との合同会議) 表彰規程、基本日程計画
6/20(土) 15:00~20:00 @京王プラザ会議室	1. 定例報告 2. 老舗実態調査計画 3. FBNJ表彰関連(表彰候補先及び現地調査日程計画)
7/11(土) 15:00~20:00 @LODH会議室	1. 定例報告 2. 老舗データベースについて
8/1(土) 15:00~20:00 @ASG会議室	FBNJ表彰について(FBNJ表彰部会との合同会議) 現地調査の中間報告
8/8(土)~9(日) 長野県上高井郡小布施町	2010年度第2回老舗実態調査(小布施地区) 小布施堂、市村酒造
8/22(土) 15:00~20:00 @京王プラザ会議室	1. 定例報告 2. 老舗実態調査(小布施地区報告) 3. 日中韓合同学術大会への対応(FB分科会の進め方)
8/30(日) 15:00~20:00 @ASG会議室	FBNJ表彰について(FBNJ表彰部会との合同会議) 現地調査(中間報告)
9/19(土) 15:00~20:00 @LODH会議室	1. 定例報告 2. 老舗実態調査(日程計画ほか)
9/27(日)~9/30(水) @ドイツ・ギュータスロー他	2010年度第3回老舗実態調査: Bertelsmann AG、Miele、Goldbeck、Katag AG

10/17(土) 15:00~20:00 @京王プラザ会議室	1. 定例報告 2. 伝統産業におけるイノベーション（共立女子大・藤田教授） 3. FBNJ表彰について（現地調査報告）
11/7(土) 15:00~20:00 @ASG会議室	FBNJ表彰について（FBNJ表彰部会との合同会議） 現地調査報告、親委員会への上申内容まとめ
11/14(土) 15:00~20:00 @LODH会議室	1. 定例報告 2. 老舗実態調査（灘地区）について 3. 日中韓合同学术大会報告
11/28(土)~29(日) @兵庫県西宮市	2010年度第4回老舗実態調査（灘地区）：学校法人辰馬育英会（甲陽学院）、剣菱酒造㈱、辰馬本家酒造㈱、白鷹㈱
12/12(土) 15:00~20:00 @ASG会議室	1. 定例報告 2. 老舗実態調査（灘地区）報告 3. FBNJ表彰関連
1/9(土) 15:00~20:00 @LODH会議室	1. 定例報告 2. 老舗実態調査（魚沼地区）詳細打合せ 3. その他
1/10(日)~11(月) @新潟県南魚沼市	老舗実態調査（魚沼地区）：八海山酒造㈱
2/6(土) 15:00~20:00 @京王プラザ会議室	1. 定例報告 2. FBNJ表彰について 3. その他
2/18(木) @埼玉県川越市	FBツアーブランチ、亀屋ほか
2/19(金) @ハリウッド大学院大学	FBNJ 表彰式シンポジウム
3/27(土) 15:00~20:00 @京王プラザ会議室	1. 定例報告 2. FBNJ表彰報告 3. その他

## 研究会 老舗和菓子製造業研究会

報告者 増山 正紀

平成20年度は昭和37年（1962年）創業の和菓子メーカー（従業員数210人）を中心的な対象として、経営に関する基礎的な分析を行い、21年度には、九州に所在する老舗メーカー3社を3回に分けて訪問し、それぞれの経営者から聞き取り調査を行う予定である。明治38年（1905年）創業、資本金9500万円、従業員数260人のA社、寛永7年（1630）、資本金1000万円、従業員数360人のB社、大正3年（1914年）、資本金600万円、従業員数30人のC社である。「商品」の伝統保守と革新に加えて、「マネジメント」のそれについて、収集した資料を持ち寄つて研究会を行ってきてている。

## 研究会 CNWシステム研究会

研究会代表 平出 洋

コンサルタント個人の自主運営を基本とするが、同時に会員相互のコンサルティングノウハウの有機的活用と、能力のレベルアップを図り、より高度な企業ニーズに対応できるようネットワークを構築し、会員相互の良好な業務環境の創造を側面から支援することを目的とする。

開催日及び場所	報告者及び題目等
2009年4月25日(土) 学士会館	志摩喜三「レジャー事業(余暇市場)の変遷と今後について」
2009年6月28日(日) 学士会館	森木亮「日米同時破産」
2009年8月16日(日) 学士会館	黒崎謙「地球資源の枯渇(石油編)」
2009年10月25日(日) 学士会館	黒川和夫「買い手企業との人間関係強化による営業活動の効率化」
2009年12月23日(水) 学士会館	桜井政司「身近な税金のチェックポイント」
2010年2月14日(日) 学士会館	滝沢登志男「21世紀水の枯渇が深刻化」

## 研究会 教育科学マネジメント研究会

研究会代表 田口 ヤス子

わが国を担う教育環境の充実を目指し、社会に寄与する指導者の資質向上を目的として、科学的見地から教育マネジメントを広い角度から深く探求する。

### 【特別研究部会】

開催日及び場所	報告者及び題目等
2010年1月31日(日) JR恵比寿駅下車SPCビル4F	西野進先生(神奈川県人材育成委員) 「指導現場に活かす傾聴の基本」
2010年1月31日(日) JR恵比寿駅下車SPCビル4F	田口ヤス子(日本体育大学相談室) 「教育現場でのカウンセリング」
2010年2月1日(月) JR恵比寿駅下車SPCビル4F	久米秀作先生(平成帝京大学准教授) 「教育現場でのコーチング」
2010年2月1日(月) JR恵比寿駅下車SPCビル4F	善竹富太郎先生(大蔵流狂言) 「狂言に学ぶ指導現場における表現の基本」

### 【その他の活動/定例部会】

開催日及び場所	内 容
2009年5月～2010年3月 第1週火曜日…13：30～17：00 JR恵比寿駅下車SPCビル4F	現況報告・特別研究会の企画・検討 資質向上勉強会

## 研究会 日中韓経営管理研究会

研究会代表 横澤 利昌

研究目的等については次のとおりである。

- ①日中韓の人材の交流を通じて調和と共生を目指すよう努力する。
- ②歴史や文化の異同を理解し東アジアの経営モデルを構築する。
- ③理論と実践を繋ぎ合わせ内外に提言、発信する。

具体的にはCSR、環境問題、企業統治、ファミリービジネス、その他、その時代にマッチした課題に取り組む。

開催日及び場所	報告者及び題目等
2009年5月30日(土) ハリウッド大学院大学(六本木ヒルズ) (関東支部会との共催)	西園寺一見氏(工学院大学孔子学院院長) テーマ:世界同時不況と中国経済 —中国経済の持続的発展は可能か—
2009年7月25日(土) ハリウッド大学院大学	範云涛氏(亞細亞大学MBA教授) テーマ:ポスト京都議定書以降の日中間エネルギー協力枠組みについて
2009年10月24日(土)～26日(月) 東義大学校(釜山) 日中韓の学者・企業人 75人	第5回韓中日経営管理学術大会 テーマ:GREEN経営創造力
2010年2月20日(土) ハリウッド大学院大学	竹田純一氏(NHK考査室報道統括役員) テーマ:日中韓—30年の国際取材 ～変化するダイナミズムと変わらぬ伝統～

本学会が加盟している日本経済学会連合の海外研究機関向け紹介誌に、実践経営を下記のように紹介いたしました。(平野文彦)

## JAPAN SOCIETY FOR APPLIED MANAGEMENT

### 1. Brief history of the Society

The Japan Society for Applied Management (JSAM) was established on 24 June, 1967. Founders were Professor Shigeru NOMA (Meiji University at that time, the first president), Professor Takatsugu NATOH (College of Economics, Nihon University, Founder chief director, the second president), Professor Minoru TAKEDA (Teikyo University, afterwards), Professor Shigero MITSUMORI (Soka University, afterwards) and other antecedent leaders. Since then, JSAM has been served by the following presidents: Seiji MUROMOTO (Nihon University), Toshimasa YOKOZAWA (Asia University), Noboru NAKAGAKI (Chukyo University), and Fumihiko HIRANO (Nihon University). Membership was 560 as of the end of March 2010.

### 2. The aim and method of JSAM

The aim of JSAM is to accumulate researches and studies on practices of business management, to make them public and examine them comparatively, and to spread the results to the world. For this purpose, not only academics but also business persons and business consultants who are eager to research facts or principles have been assembled.

In recent years, JSAM has been advocating a practical approach by emphasizing real managerial situations and harmonizing theories and practices more clearly. This is in order to make efforts to modernize management theories which are continuously becoming outdated in the situation of globalization advancing rapidly.

### 3. The Academic Ethics of JSAM

JSAM has been raising its academic ethics as follows.

#### [1] Principal Question

Does your research contribute towards a knowledge creation offering solutions to global human and social problems?

#### [2] Six ethical mission statements

<A> On research questions, we should be conscious of;

- ① the public mission and public interest to contribute towards the realization of world peace, human welfare, social development and physically and mentally wealthy society, and
- ② sustainable uses of cosmic and terrestrial resources, societal resources, and human resources.

<B> On research approach, we should hold;

- ③ a sense of noble conviction, consciousness and justice and social responsibility which are based on bioethics, a spirit of animal protection and respect for human rights,

④ a firm will to contribute to social justice, as well as respect towards compliance, and

⑤ honest and gentle behavior, and pride and dignity.

For that, we should not forge or counterfeit a study data or plagiarise others' articles. We should distinguish own opinion and others' strictly and be conscious of on responsibility for our own opinions.

<C> Finally, on research environment,

⑥ researchers should not compromise their research based on inadequate research conditions or environment. They should always be conscious to improve their research environment for smoothly progress in free and vigorous research. We should take effort in improving our research environment.

#### 4. Outline of JSAM's Activities

JSAM now carries out the following activities.

##### (1) The annual national academic conference

It is held various places in Japan every year. About 50 presentations of the research results by society members, and a symposium under some united subject are conducted there every year.

##### (2) Local Branch academic meetings

JSAM has eight Local Branches in the country as follows. Hokkaido (Office is in the city of Sapporo), Tohoku (in Sendai), Kanto (in Tokyo), Hokuriku (in Kanazawa), Chubu, (in Nagoya), Kansai (in Osaka), Chugoku & Shikoku, (in Hiroshima), and Kyushu & Okinawa (in Nagasaki). Each branch holds an academic meeting once or twice a year in each place.

##### (3) Publishing

JSAM has now four publications as follows:

*Annals of the Japan Society for Applied Management (Jissen Keiei)*

Refereed Articles are collected mainly. In Vol.No46 (published 2009), 30 articles appered.

*The Japanese Journal of Applied Management Studies*

—Articles for the Annual Academic Conference of JSAM (Jissen Keieigaku Kenkyu)

40 ~ 50 articles announced at the Annual Academic Conference of the age were collected.

**NEWSLETTER**

This is an official information paper for member. It is edited and published at the Society Headquarters twice a year.

*The Fruits of JSAM Series*

There are 20-page leaflet written as a result of independent or collaborative research activities within JSAM. The first was published in 2010.

(4) Cooperating with holding the Japan-China-South Korea 3 country business management forum  
JSAM has been concerned with some international activities steadily for many years.

During those years, Toshimasa YOKOZAWA, professor at Asia University, who was former president of JSAM, and the late JIN Tiecheng, who was a Chinese graduate student at the University of Tokyo, established this academic meeting among three countries. The first forum was held in 2005 and a forum has been held sequentially once a year since then. The first forum was held in Shanghai, the second in Pusan, the third in Tokyo, the fourth in Shanghai, the fifth in Pusan, and the sixth in Tokyo in autumn 2010.

#### (5) Awards

JSAM started own award system in 1998 to commend member's excellent research achievements. It has three prizes as follows;

- ① Grand Prix of JSAM: to commend excellent research concerning theory development on enterprise, industry and its applied management chiefly
- ② The NATOH Prize: to commend experimental studies and practice researches on enterprise and industry chiefly. (named after Founder chief director NATOH)
- ③ Encouragement Prize: to promote scholarly investigations of actual conditions on enterprises and industries chiefly.

### 5. The united subjects raised at annual national academic conferences in the last decade

Sequence	year	Research themes raised at the association's assemblies	site	execution chairman
53rd	2010.9	Management philosophy-led corporate and human resource management: In search of congruence between humanity and rationality	Prefectural University of Hiroshima	OBARA Kumiko
52nd	2009.9	Regional promotion and tourism	Ishinomaki Senshu University	HARUYAMA Toshio
51st	2008.9	Creation of regions and applied management: Voices from the regions	Nagasaki Prefectural University,Sasebo	MURAKAMI Norio
50th	2007.9	Corporate management during periods of reform and applied management: Its challenges and prospects	Tokyo International University	WATANABE Motoyuki
49th	2006.9	Practicing our wisdom: Rebirth of leadership	Chukyo University	MURAYAMA Motofusa
48th	2005.9	Disaster prevention, regeneration and the regions: From applied management view	Niigata University of Management	FUKAZAWA Yuhka
47th	2004.9	Post modern management: In search of a practice-base knowledge	Asia University	SUZUKI Shinobu
46th	2003.9	Creation of "knowledge" for the 21st century and research challenges for applied management: Focusing on Japan's tomorrow	Dohto University	YAMADA Takashi
45th	2002.9	Challenges and prospects of region management	Nasu University	FUKAZAWA Yuhka
44th	2001.9	Creation of social systems in the new era: IT revolution, aging society and declining birthrate, public welfare, environment and culture	Kyushu University of Health and Welfare	MINEO Kazumichi

(Fumihiko HIRANO, Nihon University)

## 第43期会費納入のお願い

第43期（2010年4月～2011年3月）の会費納入の通知を6月にいたしました。まだ納入がお済みでない会員の方は、可及的速やかに納入をお願い致します。

学会活動は会員の会費によって支えられておりますので、全国大会および各地域支部会における報告資格は、「年会費を納入済みの会員」としております。ご留意ください。

## 実践経営学会研究者倫理綱領

実践経営学会は、学術研究の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、常に良心と信念にしたがって、自らの責任で行動しなければならないという考え方方に立って、以下の通り「研究者倫理綱領」を定める。

— 2008. 9. 13 実践経営学会会長・平野文彦（日本大学） —

### A. 研究の課題について

1. 常に「世界の平和」、「人類の福祉」、「社会の発展」、および「物心両面からの豊かな社会の実現」に貢献するための公共的・公益的使命を意識すること。
2. 常に「宇宙と地球の資源」、「社会の資源」、及び「人的資源」の持続可能な利用を意識すること。

### B. 研究の姿勢と方法について

3. 常に「生命倫理、人権の尊重、および動物愛護の精神」を踏まえた「高潔な信念」、「良心と正義」、および「社会的責任感」を確立すること。
4. 常に「法令遵守の意識」を持つことはもとより、常に「社会正義」に寄与すること。
5. 常に、「正直で、恥じることのない行動」をとり、「誇りと品性」を保つこと。そのためには、研究データのねつ造、偽造、論文の剽窃などを行わないこと。個人の見解と他者の見解を明瞭に区分するとともに、自己の見解には責任を十分に自覚すること。

### C. 研究の環境について

6. 常に、自由で闊達な研究活動が円滑に進むよう、研究環境の改善に努めること。研究の条件や環境が不足していることを理由とした不十分な研究は許されない。

2008. 9. 13 常任理事会決定  
同日、理事会および会員総会承認

以上

実践経営学会

JAPAN SOCIETY FOR APPLIED MANAGEMENT

発行日：2010（平成22）年11月30日

発行者：会長 平野 文彦

編集責任者：事務局長 山北 晴雄

発行所：〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

中部大学経営情報学部経営情報学科 山北晴雄研究室内

TEL：090-7209-5839 FAX：0568-52-1505 E-mail：jsam.honbu@gmail.com

印刷所：株式会社メディオ